

昨年の政治的 이슈は「脱」という文字に象徴される。脱原発、脱官僚、脱消費税、脱デフレ、脱民主、脱自公民、脱仮設住宅、脱いじめ、脱災害、脱北などがあるであろうか。どれも筆者の勝手な希望であるが、被災地の仮設住宅や借上げ住宅で正月を迎えた方には、本来戻るべきところへ1日も早く安心して住めるように願うばかりである。

昨年、厚労省は仮設住宅の居住期間は3年と定めた。政府もそれを念頭に入れて政策を講じているはずであるが、政権交代を理由に居住期間の延長は絶対に許されない。新政府は「2014年5月までに脱仮設生活」を宣言して、政策を進めるべきである。

原稿を執筆時はまだ選挙前であるため新政権の枠組みはまったく分からないが、素人の見立てでは自・公・維連立政権で安倍首相が誕生するのではないかと思われる。新政権への国民の期待は第一に経済再生であるが、まず初めに取り組むべき課題は官僚独裁政治からの脱却である。それをしない限り、脱原発も日本維新の会の橋下代表代行は自民党に対して連立政権の条件に脱官僚を盛り込むことは間違いない。その際には審議会制度を英国の公職任命コミッショナー制度にならって見直しを行ってほしい。日本の誤った政策は審議会制度が原因の一つである。審議委員のほとんどが学者・団体の幹部であり、現場を知っている民間の経営者や批判者がいないため失政ばかりが講じられている。政権交代してから何度も出された成長戦略はインターネットを検索すれば誰にでもつくれるものであり、業界から大臣に陳情された通りに寄せ集めた内容で、まったく将来を見通していない。

地球温暖化対策についても然りである。昨年末にCOP18(第18回国連気候変動枠組条約締約国会議)が何の成果も上げられず、京都議定書の13~20年の第2約束期間を合意しただけで閉幕した。日本は何の見直しも示すことができず、途上国向け短期資金を1兆円(世界の4割)拠出しているにもかかわらず世界から非難され、CO<sub>2</sub>排出量世界一の中国から脅かされる始末である。中国は世界から非難されることなく、したたかに排出権取引に絡んで一儲けを目論んでいる。日本外交の底の浅さであり、官僚政治のなれの果てである。

日本は国内政策においても早く地球温暖化人為説という荒唐無稽なつくり話を捨て、低炭素社会の見直しをするべきである。地球温暖化対策にも省エネにも貢献しない省エネ法改正に関係する「住宅・建築物に係る省エネルギー基準の見直し」は国の審議会制度がもたらした最悪な政策である。膨大な税金



命と文化を救え  
今こそ原点回帰が求められている

江原幸志

と民間投資の無駄であり、地方の財政が圧迫されるだけでなく、大量の廃棄物を出すことになる。地方自治体は2020年を待つことなく、すぐに国に対して異議申し立てを行なわないと手遅れになる。公共建築物の耐震化がままならないのに断熱改修工事を行える余裕はどこにもない。低炭素社会と減災社会とどちらが重要であるか、重要な方を実現するためには今何をしなくてはいけないか、地方分権の試金石として地方自治体の判断にかかっている。僭越だが、この警鐘を真摯に受け止めていただきたい。

12月に起きた中央自動車道笹子トンネル事故では何の落ち度もない9人の貴いいのちが犠牲になった。一方では高度成長期の公共インフラのメンテナンスの必要性を社会に訴える事故であった。減災社会の実現のためにも財源確保は必至である。減災社会より低炭素社会への投資を優先させる民主党の成長戦略が間違いであった証左である。他方では、企業や団体のあり方として自らが掲げる理念や倫理綱領という原点に帰れという警鐘であると思われる。先のコラムで書いた「日本社会にフィロソフィーが必要なとき」に通底する。

笹子トンネルのメンテナンスを行っていたのは中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京であるが、その企業理念に「最高水準の技術を提供することにより、日々の保全点検等業務を通して高速道路の安全・快適な走行空間を確保し、お客様と社会に貢献します」とあり、社長挨拶には「高速道路の保全点検技術は、約40年にわたって培われ、日々の技術開発とノウハウの蓄積により高い技術レベルを創り上げております」とある。額面通りに徹底されていれば笹子トンネル事故は起こりうるはずはなかった。安全工学に「スイスチーズモデル理論」というのがある。これには「チーズの穴を遮断する一枚の完璧な板を挟み込むことが必要である。その一枚の遮断壁になるのが安全を管理する人である」という安全を管理する人の態度についての教えがある。責任者の資質が問われている。

現在問題になっている伝統木造の扱いにおける日本建築学会の態度にも団体として倫理が問われている。筆者は2011年の建築学会の「都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会」のシンポジウムで「伝統構法木造の危機的な状況」を訴えたが、その後学会としての新たな取り組みは確認されていない。さらに、伝統的構法木造を実現すべく法改正のために、国交省の3カ年事業としての「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会が間もなくその成果を報告する時期にきている。しかし報告書が出る寸前で、日本建築学会から「伝統的木造建築物構造設計指針・同解説」が刊行されよう

としている。この指針が出されると、検討委員会の結果と異なる指針が提示されることになり、混乱を招く恐れがある。この混乱によって3カ年事業の成果による伝統的構法設計法および技術基準の普及を妨げる可能性がある。

日本建築学会の倫理綱領と会員の行動規範をご覧いただきたい。倫理綱領では「日本建築学会はそれぞれの地域における固有の歴史と伝統と文化を尊重し、地球規模の自然環境と培った知恵と技術を共生させ、豊かな人間生活の基盤となる建築の社会的役割と責任を自覚し、人々に貢献することを使命とする」。さらに、行動規範では「人類の福祉のために、自らの叡智と、培った学術・技術・芸術の持ち得る能力を傾注し、勇気と熱意をもって建築と都市環境の創造を目指す。深い知識と高い判断力をもって、社会生活の安全と人々の生活価値を高めるための努力を惜しまない」と謳っている。これまで長い歴史の中で培われてきた伝統木造の技術・文化に対して日本建築学会としていかに対応すべきか、真価が問われているのではないだろうか。

多くの人は自分の所属する会社・団体の理念や綱領や定款を顧みる機会がないかも知れないが、新年を迎えるにあたり「原点に帰って」みてはいかがだろうか。救えるいのち、救える文化があることに気づくかもしれない。

- 仮設住宅の居住期間3年に厚労省、1年延長  
<http://www.asahi.com/special/10005/TKY201204170225.html>
- 2012衆院選:温暖化対策、足踏み25%削減、原発前提、各党政策、具体性欠く  
<http://senkyo.mainichi.jp/news/20121206ddm008010020000c.html>
- COP18 中国が議論をリード 日本は存在感せず  
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/121209/trd12120900590000-n1.htm>
- COP18:温暖化対策 途上国援助は2兆7,000億円に  
<http://mainichi.jp/select/news/20121129k0000m040030000c.html>
- 世界の二酸化炭素排出量-国別排出割合(2009年)  
[http://www.jccca.org/chart/chart03\\_01.html](http://www.jccca.org/chart/chart03_01.html)
- 中国の地球温暖化対策はしたか  
<http://adachihayao.cocolog-nifty.com/blog/2012/06/post-e13c.html>
- カタル COP18、成果なく閉幕  
<http://japanese.trib.ir/news/latest-news/item/33715-%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%ABcop%E3%91%EF%E3%98%E3%80%81%E6%88%90%E6%9E%9C%E3%81%AA%E3%81%8F%E9%96%89%E5%B9%95>
- 住宅・建築物に係る省エネルギー基準の見直しの概要(案)  
[http://www.meti.go.jp/committee/energy/energy\\_conservation\\_kijyun/jyutaku\\_kenchiku/pdf/004\\_s01\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/energy/energy_conservation_kijyun/jyutaku_kenchiku/pdf/004_s01_00.pdf)
- スイスチーズモデル  
[http://rikanet2.jst.go.jp/contents/cp0300/contents/extension\\_page/extension\\_page29.html](http://rikanet2.jst.go.jp/contents/cp0300/contents/extension_page/extension_page29.html)
- 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京の企業理念  
[http://www.c-nexco-het.jp/ci\\_line.html](http://www.c-nexco-het.jp/ci_line.html)  
[http://www.c-nexco-het.jp/ci\\_chief.html](http://www.c-nexco-het.jp/ci_chief.html)
- 日本建築学会への意見書に賛同する方の名前を集めています  
<http://kino-ie.net/kinoienews/?p=1391>
- 日本建築学会 日本建築学会倫理綱領・行動規範  
<http://www.aij.or.jp/jn/guide/ethics.htm>
- 日本社会にフィロソフィーが必要なとき  
[http://www.kinokenchiku.biz/kenchikutoseiji\\_201210.pdf](http://www.kinokenchiku.biz/kenchikutoseiji_201210.pdf)
- 伝統構法木造を阻む要因について  
[http://www.kinokenchiku.biz/symposium\\_111205.pdf](http://www.kinokenchiku.biz/symposium_111205.pdf)



えはら・こういち | 木の建築設計  
1962年東京都生まれ。1987年東京理科大学建築学科卒業。1996年木の建築設計設立